



# ヘルス＆ケア

## ⑥治療効果がない？慢性腰痛症

発症して3ヶ月以上経過と

いと言われ治療効果もないとい

うのだ。ミステリアスだ。

定義される慢性腰痛症は社会的問題である。どれほど痛み

が強くても、数週間で落ち着く急性腰痛は大きな問題ではない。腰痛で休職一年以上、

あるいは腰痛で辞職せざるを

得ないと病院を訪れる人も多い。しかも私の病院へ来る前

に5カ所以上受診したという場合も多く、検査で問題がない

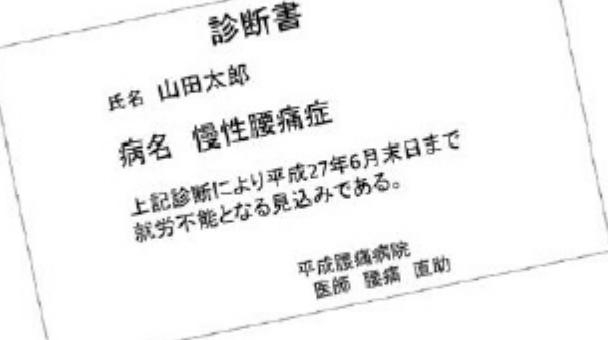
（2011年）によると、疼痛による日本の経済的損失額

は3700億円である（最多は精神疾患で1兆円）。疼痛の中でも、腰痛が大きな割合を占めるることは間違いない。

1980年代のスウェーデンでは腰痛による就労障害コストはGDPを上回るのではないかとも言わった。

腰痛症による経済的損失は社会保障先進国で大きいようだ。腰痛で働けないと社会保障のない国では生きられない。では

先進国の腰痛患者はさして痛くないのに、保障があるから痛いと言っているのか？しかし、実際の腰痛患者は現実的な痛みを持ってている様子だ。ど



# 腰痛 ミステリアスな難敵

のストレス、周囲の不理解、腰痛への過剰な恐怖などが精神活動に影響し、痛みを増強させたり遷延させたりしているのだ。社会構造が複雑な先進国では、より顕著だ

ううことなのか。

以前は腰痛の原因を解剖学的構造物の損傷に求めてきたが、最近では心理社会的因素を含した総合的な疼痛性障害と理解されている。職場でのストレス、周囲の不理解、腰痛への過剰な恐怖などが精神活動に影響し、痛みを増強させたり遷延させたりしているのだ。社会構造が複雑な先進国では、より顕著だ

うことなのか。

このように慢性腰痛症に対するには、整形外科のみならず心療内科医、臨床心理士、理学療法士などの治療チームが必要である。さらには、解剖学的構造物の障害という単純な問題ではない、という本人の理解も必要である。現在、このようなチーム医療ができる医療施設はほとんどない。大きな労力を伴うものの、今の診療報酬制度では収益にならないためだろう。制度改革が望まれるし、われわれ整形外科医も努力をしていく必要がある。

（岩井整形外科内科病院  
湯澤洋平副院長）

## 原因には心理社会的因素も